

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、福田 広美、佐藤 愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	20	
科目の目的と概要	<p><実習目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者の健康と生活を維持するための支援について考えることができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域のあり方（自治体の取り組み等を含む）を考えることができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションをとることができる。 <p><1年次生実習目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で生活する協力者とコミュニケーションをとり、地域で生活する人の全体像を理解することができる。 2. チームメンバーとして協力し、メンバーを支えることができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者を地域で生活する人として「健康の視点から」捉え、全体像を説明することができる。 2. 協力者を理解するため、または相互理解を深めるためのコミュニケーションの重要性を述べることができる。 3. 自らのコミュニケーションの課題を述べるができる。 4. 予防的家庭訪問でチームメンバーとの話し合いを通して、今後の学習課題を述べるができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性	
授業計画	<p>実習期間：2026年4月～2027年2月</p> <p>実習場所：富士見が丘団地・下横瀬地区、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等</p> <p>実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。学生は1～4年生の縦割りで編成されたチームのメンバーとともに、年間4回以上訪問する。</p>	
その他の授業の工夫	<p>1～4年生で構成されるチームで複数回の継続的な訪問を行い、学年間の学びの共有と協働的学修を促す。</p> <p>訪問計画の調整が必要な場合には、看護研究交流センターや担当教員に相談しながら進める。</p> <p>2月には訪問活動を振り返り、協力者の状況や活動内容、目標の達成度について共有し、学びを整理する。</p>	
時間外学修	<p>事前学修：カンファレンス、予習（1.5h）</p> <p>事後学修：カンファレンス、記録作成（2.5h）</p>	
評価方法と評価割合	<p>年4回以上訪問を行い、以下の～により総合的に評価する。</p> <p>訪問後のレポート・・・・・・・・60%</p> <p>実習内容/実習態度・・・・・・・・30%</p> <p>最終レポート・・・・・・・・10%</p>	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院における看護活動 佐藤愛：病院・地域における看護活動 福田広美：病院における看護活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無

	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	